

医薬品適正使用を目指した薬物動態研究の実践

～これまでのキャリアを振り返って～

講師

矢野 育子 先生

神戸大学医学部附属病院 薬剤部長
神戸大学大学院医学系研究科 教授



日時

2021年 2 月 2 日 (火) 14:40 - 16:10

会場

岐阜薬科大学本部 第二講義室
(zoomによるオンライン開催)

昭和の最後から大学病院で業務・教育・研究に従事してきた。研究領域は、医療薬剤学や薬物動態学であるが、そのベースには大学院時代のテーマである「患者データを用いた母集団薬物動態解析」がある。教授面接で高校時代に得意だった科目を聞かれ、「数学です」と答えたのが始まりである。大学院修了後に薬剤師として就職し、黎明期のTDMを担当した。平成元年には、国立大学病院で初の病棟薬剤師となったが、TDMの知識を生かしてということで小児科の担当となった。その後論文博士を取得し大学教員に立場が変わり、母集団解析のためのNONMEMプログラムを開発したUCSFのSheiner教授とBeal教授の下に留学する機会を得た。近年、PK-PD解析はファーマコメトリクスに発展し、母集団解析とともに生理学的薬物動態速度論(PBPK)解析が臨床使用されている。これまで薬剤師として研究を続けてこられたことは、恩師や先輩、共同研究者、出会った患者さん、そして家族のお陰である。これからの薬剤師に必要なものは、患者さんに寄り添う思いやりの心とともに、サイエンスに裏付けられた処方提案である。考える力や想像力を養うために研究マインドが大事と思う。